

○大畫家コラン翁死す

〓我洋畫界唯一の恩人たりし〓

▽黒田畫伯同人三氏と共に弔電を送る△

ラファエル・コラン我美術界に最も親しみを以て迎へらるゝ名のコラン先生が先月二十日享年六十七歳で巴里で死去したとの報が傳へられた、外光派の大成者として又我邦現代洋畫界の大恩人として日本愛好者の一人として翁を失つたことは一通りの損害ではない、親しく翁に師事した

▽黒田清輝氏は 語りて曰く「コラン先生の死去は此の十五日岩村透氏の許に着した米國の美術雜誌で始めて知つたのである、先生は一八五〇年巴里に生れ巴里美術學校生徒としてカバネル教授の□室で繪を學んだ、廿三才の頃にはサロンに出品して二等賞を獲得し永久無鑑査の榮譽を擔つて一躍大家の群に入つた、一九〇〇年の大博覽會には名譽賞を得一九〇二、三年頃には學士會員として

▽最高名譽を 得たサロンの審査員も永年勤めた、一九〇二年頃であつたと思ふ多年の勳功に依つて我邦から勳三等に叙せられた、先生の長所は特に柔かい色で強い感じを出すに頗る巧みであつた、性質は極地味な虛榮心の無い人であつたから廣告的には餘り人に知られ居らなかつたが、夫でも佛國よりは寧ろ米國や

▽日本に於て 多くの知己を持つて居た、遺作中の大作としては巴里市廳の壁畫、ソルボン大學の壁畫、オペラ座の天井畫、オペラコミックの壁畫等で後者は其最も得意のものであつた、其他遺作の大部分は佛國のルクサ

ンブル美術館や米國富豪の手に收められて居る、日本に來てる作は岩崎男、前田侯所有の二點で何れも先生作中の逸物である岩崎男所有のは今春「時事新報」新年附録として出した

▽春のひかり であるから誰人も記憶に新しい事であらう、日本人の弟子としては私に、久米、和田、岡田、若い所で山下和田三造氏等である、突然の訃報に接して親を失つたやうな氣がして居る、昨日余等は和田、久米、岡田夫れから自分等同人四名の名で弔電を打つて置いた、いづれ近い中に築地の天主堂で

▽追悼會でも 營まうと思ふ、先生は終生獨身でたつた一人の妹さんと生活されて居たが、六十三歳の妹さんは今頃は弔電を手にしてどんな考へに沈んで居られるか」云々

『時事新報』大正五年二月二〇日